

## 田中理事長のゆんたく広場

## 〜「コロナ禍における命の重さ」〜

手をつなぐ・うちな〜  
知的な障がいのある人と共に〜  
県育成会のHPにもカラー印刷で掲載中♪

発行所  
沖縄県手をつなぐ育成会  
那覇市首里石嶺町4-373-1  
沖縄県総合福祉センター内  
TEL 098 - 882 -5727  
FAX 098 - 882 -5720  
E-mail:oki-iku@woody.ocn.ne.jp  
HP: http://www.oki-iku.com/  
発行人 理事長 田中寛  
定価 50円(会費を含む)

- 【目次】
- P1 田中理事長のゆんたく広場
  - P2 特別児童扶養手当の審査に関する声明文
  - P3 心の輪審査会・ご報告・義援金募集・理事通信
  - P4 県育成会予定・ゴルフ大会案内 他



沖縄県内で5月に始まった緊急事態宣言も、9月末で4か月経過しており、すでに緊急事態という意識が薄れているのは私だけでしょか。政府では感染者の減少傾向に加え経済の立て直し等も考慮して9月末での宣言解除も行われましたが、第6波到来への不安は消えません。未曾有の感染症に対しては、政府や首長も含め、誰がどのような対策を講じて100%納得できる状況にはならないと思いますが、命の危機と向き合う緊張感で、不安は増すばかりです。

コロナ禍において全国育成会連合会のみならず、沖縄県育成会の事業運営も中止やオンライン傾向となり、会員の主体である高齢者が参加する事業への機会が減少し、育成会の存在価値に対する疑問や不安の声も聴かれます。

また9月末に新聞報道された「津久井やまゆり園」と同じく神奈川県立である知的障害者施設「中井やまゆり園」にて起きた虐待事件のように、閉鎖的な環境にある全国の入所施設内での虐待事例が、公にならずに埋もれているかもしれせん。

2度のワクチン接種だけではなくマスクの着用についても、その効用について賛否が飛び交う中において、高齢者や10代以下の子供たちへの感染増加に対する不安も拭いきれません。

会員の多くが高齢者で構成される育成会や、社会参加活動の主流ともいえる障がい福祉サービス事業所を利用されている当事者は、病に対する抵抗力が弱い人も存在するために、例え軽症であろうと、自宅療養ではなく設備の整った医療現場での治療が可能となる政策を切に望むばかりです。

沖縄県において、精神科病院でのクラスター発生にて、入院患者64名という多数の死者が出ている事実も報道にて判明しており、

改めて医療現場のひっ迫している事実に驚愕しています。さらに新聞報道には「沖縄県コロナ対策専門家会議にて県内が医療崩壊の域にあるとの共通認識の下、患者の治療の優先順位を判断する『トリアージ』の指針を議論する方針を確認した。感染拡大で医療資源が不足する中、現場の医師ら個人に『命の選択』に関する判断が委ねられる現状に強い危機感が示された。」とあります。

「トリアージ」。あまり聞き慣れない言語ですが、もとはフランス語の選別を意味する言葉で、テレビの医療ドラマでは時々同様のシーンを見ることがあります。その内容は、医療資源をはるかに超えた負傷者が発生した時、最大限の救命を行うための緊急医療時に、重度化や緊急性を考慮し、優先順位を決めて搬送や治療を行うことを重要とする考え方です。

当然のように、老若男女を問わず、命の重さは誰であろうと平等であり、誰であろうと選別は許されるべきではありません。しかし危惧されるのは、治療への対応が厳しいと判断された病院等の閉ざされた空間内の議論において、優生思想につながる障がいや高齢を理由とした命の選別が推進される不安や恐怖であります。

パラリンピックの開催にて大勢の国民に認識されたと信じている共生社会の実現の前には、命の平等という観念が最前提となります。わずか5年しか経過していない神奈川県立相模原の「津久井やまゆり園」の痛ましい事件の悲しみが風化するには、まだ時期尚早ではないでしょうか？

治療薬の見通しが見えない現状において、私たちはコロナ禍を前提とした生活を余儀なくされます。自分のみならず、大切な人を守る思いやりのある行動に対して、改めて自戒の念を込めます。

## 〜特別児童扶養手当の審査に関して全育連として声明を発表をしました〜

新聞報道されている特別児童扶養手当の審査に関して、全育連として声明を発表いたしました。詳しくは、下記URLまたは下記声明文をご覧ください。

<http://zen-iku.jp/info/4481.html>

声明文の公表に当たっては、実際の例を情報提供くださった正会員の皆さまもおられ、厚くお礼申し上げます。引き続き、お近くに「これで非該当はあり得ない」「状態は変わっていないのに1級が2級になってしまった」といった事案がございましたら、情報提供くださいますと幸いです。  
(全国手をつなぐ育成会連合会通達より抜粋)

### 特別児童扶養手当の審査に関する声明

先月末から今月にかけて新聞等で報道された特別児童扶養手当の審査に関し、一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会(以下「当会」という。)として声明を発表いたします。

まず、特別児童扶養手当(以下「特児手当」という。)については、昭和39年(1964年)に当時の全日本精神薄弱者育成会をはじめとする関係団体が国に働きかけて制度化された経緯があります。また、その後も全日本精神薄弱者育成会の働きかけによって対象児童の拡大などが図られてきました。その結果、現在では25万人近い受給者数のある手当となっています。

今回の新聞報道等によると、特児手当について大きく次の5点について課題が指摘されています。

- (1) 特児手当の申請が却下される件数が令和元年度(2019年度)までの10年間で3倍近く増加
- (2) 一度受給対象となった後、更新時の審査で打ち切られるケースも増加傾向
- (3) 却下件数については地域差が大きく、申請の6割超が却下の自治体もある
- (4) 発達障害児の申請件数が増えていることが問題の背景にあると想定されるが、国としての基準が曖昧
- (5) 厚生労働省としては、診断書の様式を一部見直して判定のばらつきをなくしたい考え

このうち、(2)については当会にも具体的な事例が寄せられています。

ある県では、医師が診断書に「嚴重な注意が必要で、障害の程度も中度」と明記したにも関わらず、前回の診断書と比較して2〜3項目が「全介助」から「一部介助」に変更されたことを理由に非該当となってしまう、不服審査も検討している状況です。

また、(3)については却下件数が増加していることはもちろんのこと、地域によって大きな差異が生じていることに強い懸念があります。令和元年度だけの状況である可能性もありますが、住んでいる場所によって却下率0%から60%超までの開きが出るというのは、全国一律の制度として適当なのでしょうか。

当会としては、こうした状況を踏まえ、まず国において特児手当の審査基準を明確化するとともに、全国の審査実態を仔細に調査することが不可欠と考えます。

そして、著しい地域差が認められる場合には、適切な審査基準を設定した上で国において一括して審査する方式の導入なども検討する必要があると考えます。

令和3年(2021年)9月16日

一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会  
会 長 久 保 厚 子



今年もWEB会議で  
行いました



3小2 決を作 ののタ13ス体  
11名学名今定、文7審影1日夕験令  
名の生、回し長へ名査響に1作和  
の皆区一はま時6の会にて月1文3  
入様分般、し間点審とよ開の1年  
賞が2区体たに、査なり催沖審及度  
者入名分験。渡。員り、し縄査び一  
の賞、4作 ポスター募。W。福を者  
皆さ中名文 審査し各賞を Eコ社、週  
様の学、中 査し いた Bロセ9間げ  
、ま生ポ学生区 誠にた。1分

令和3年度心の輪を  
広げる  
障害者週間  
のポスター  
報告



めどうこ  
さいます。  
今後のさ  
らなるご活  
躍を祈念致  
します。

## 令和3年7月静岡県大規模土石流被害への義援金募集

今年7月に発生した「令和3年7月静岡県大規模土石流」では甚大な被害が生じました。被害に遭われた皆さまへ心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧と被災された皆さまの生活再建をお祈り申し上げます。

沖縄県手をつなぐ育成会では、義援金を募り、全国手をつなぐ育成会連合会を經由して被災地の各育成会の会員にお届けします。

以下の義援金振込先の口座を設けましたので、沖縄県手をつなぐ育成会の会員の皆様や『手をつなぐ・うちな〜』の購読者の皆様以外にもご周知いただき、ご協力をお願い申し上げます。

|                                        |                 |
|----------------------------------------|-----------------|
| 沖縄銀行<br>石嶺支店                           | 琉球銀行<br>石嶺支店    |
| (普) 1 4 1 7 9 9 1                      | (普) 4 4 4 0 7 3 |
| 公益社団法人 沖縄県手をつなぐ育成会<br>理事長 たなか ひろし 田中 寛 |                 |

◆義援金の用途について：  
全国手をつなぐ育成会連合会の  
口座で、被災地の皆様にお届けします。  
口は全で、被災地の皆様にお届けします。  
由で各県の復興のため使用され  
ます。このお知らせ致します。



新型コロナウイルスの感染拡大防止策は、障がい者の日常生活に新たな壁を作っている。コロナ禍は共生社会実現への逆風になっているのではないかと。確かに、スーパーの出入口や飲食店内に消毒液は設置はされていても届かない高さにある。ワクチン接種会場でも然り、介助者が消毒液の容器を取り、手にかざしてあげている姿を見かけた。差別も障壁もない「多様性と調和」が実現した未来を作るには、私たちが育成会が声を上げなければならぬと感じた。

しかし、パラリンピックが閉会した9月5日付の沖縄タイムス紙面には「感染対策 新たな壁に」共生社会への逆風、との見出しで記事が掲載された。  
・車いすでは届かない高さに置かれた消毒液。  
・聴覚障がい者が口の動きを読み取ることを阻むマスク。  
・選手が出場すると、誰よりも大きな声で応援している自分に、家族の視線が痛かった。(笑)。  
喜友名選手の県勢初の金メダル獲得、上野那原選手の今大会2個の銅メダル獲得等々、久しぶりに明るいニュースを聞いて、県民の一人として嬉しくなった。



理事通信  
ー今、思うことー

理事 徳村 きよの

コロナ禍の緊急事態宣言下で開催された東京オリンピック。「多様性と協調」をうたったパラリンピック。正直なところ、あまり関心がなかったが、県勢

## 県育成会行事報告9月

- ★9月1日(水) 県育成会事務局内  
チャリティーゴルフ大会実行委員会②
- ★9月13日(月) WEB会議  
心の輪審査会
- ★9月29日(水) WEB会議  
第4回ゆづあい実行委員会

## 県育成会行事予定10月・11月

- ★10月1日(金) 県育成会事務局  
第3回3役会議
- ★11月15日(月) 沖縄カントリー  
チャリティーゴルフ大会

## 「中止のお知らせ」

10月23日(土)に開催を予定しておりました

「第29回沖縄県ゆづあいスポーツ大会」は、コロナウィルス拡大を防止する為、今年度の開催は中止となりました。  
次年度開催の際は、ぜひご参加・ご協力を改めて宜しく願います。

## 令和3年度賛助会員・

敬称略

個人 桑江 良一

『手をつなぐ・うちな〜』編集者

理事長・田中 寛  
沖縄県手をつなぐ育成会事務局

## チャリティーゴルフ大会へのご協力お願い

9月号の当広報誌でもご紹介いたしましたが、その後、日程の延期(10月8日から11月15日に日程変更)が決まりました為、改めてご案内申し上げます☆皆様お誘いあわせの上、ご参加についてのご協力を宜しくお願い致します。

公益社団法人沖縄県手をつなぐ育成会は、県内の知的障がいのある人たちの社会自立参加支援と福祉向上のため、その保護者達を中心として活動しています。

本年も「公益社団法人沖縄県手をつなぐ育成会チャリティーゴルフ大会」を開催いたしますので、多くの皆様のご協力、ご参加によるご支援をお願いいたします。

(沖縄県手をつなぐチャリティーゴルフ大会実行委員会)

大会開催日：令和3年11月15日(月)

場所：沖縄カントリークラブ (西原町字桃原109 TEL 098-945-3371)



★ご予約は直接ゴルフ場へてにご連絡をお願いします。  
(午前は10組限定・午後は貸切の予定です)

★プレー料・参加費：12,000円(税込・セルフ料金・食事付)

※キャディ付は3,300円アップ

★ワンオンコンテスト：6番ホールでワンオンコンテストを行います。

※豪華賞品有♪

★表彰方法：プレー終了後、抽選により全員に賞品を授与

★コロナウィルス予防の為、当日はマスクを着用し、体調不良の方はご参加をお控え下さい。

(ご質問・お問い合わせ：沖縄県手をつなぐ育成会 098-882-5727 まで)



## ★賛助会員の趣旨★

当会は、知的障がいのある人の保護者やその支援者にて1963年に結成され、「知的障がいのある人の心豊かな暮らし」、「障がいの有無に係わらず相互を尊重し合う共生社会の実現」など、障がい特性への啓発や権利擁護運動を主体とした活動を広く社会に向けて推進しています。

その一環として、知的障がいのある人の自立と社会参加促進を目的としたスポーツ・文化的活動をはじめ、本人独自の活動支援や研修会等の多くの事業に取り組んでいます。

当会の趣旨にご賛同いただき、運営活動資金に対して皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

詳細は県育成会まで☆県育成会のホームページからもダウンロード可能です★

賛助会員  
加入のお願い

